



Show Get-key

しょうげき〜衝撃〜

第57期 第1四半期事業報告書

2003年4月1日から2003年6月30日まで



	トピックス	1
	ごあいさつ	2
	なぜなにオートバックスグループ ● vol. 2 車販売事業	3
	ガライヤ開発物語 ● vol. 2 チーフエンジニアに聞く	5
	カー用品情報 ● ETC	7
	ARTA活動報告	8
	財務報告	9
	株式情報	11
	会社情報	12
	オートバックスグループの 社会活動への参加	13
	オートバックスグループ ホームページのご紹介	14

トピックス

2003年4月

株式会社ガリバーインターナショナルと
中古車販売で提携

中古車事業を強化するため、買取・販売の大手である株式会社ガリバーインターナショナルと提携しました。オートバックスグループ店舗で展開する中古車販売システム「オートバックス・カーズ」において、ガリバーが買い取った車両の情報を提供するほか、同社から小売販売の教育、支援、研修などのバックアップを受けて、仕入・販売力を強化します。また、前期より進めている各店舗へのオートバックス・カーズ端末(車両検策端末)設置にも、引き続き注力しています。


<http://www.abcars.jp>

<http://www.glv.co.jp>

2003年6月

「高速道路料金5,000円お返しします
キャンペーン第2弾」を実施

全国のオートバックスグループ店舗では、ETC車載器の購入・セットアップをされたお客さまを対象に、高速道路料金5,000円をお返りするキャンペーンをスタートしました。これはETCの普及に注力する弊社が、より多くのお客さまにその利便性を体験していただくために実施するもので、2002年11月に続いて2回目の実施となります。(実施期間：2003年6月1日から9月30日まで)

ごあいさつ

株主の皆さまにおかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

今回お届けする株主通信「Show Get-key」Vol. 4では、弊社の経営や事業をよりよくご理解いただくための連載企画に加え、第57期第1四半期(2003年6月四半期)の決算報告を掲載しております。拝読いただければ幸いです。

「トータルカーライフサポート」実現への取り組み

弊社は「トータルカーライフサポート業」への進化を標榜し、その実現に向けて様々な経営施策と事業の展開を図っておりますが、当第1四半期における事業の進捗状況をご報告いたします。

まず店舗展開におきましては、今後の中核業態となる「スーパーオートバックス」の店舗網を拡充しました。新規出店に加え、「オートバックス」からの業態転換を加速することにより、2003年6月末時点における同業態の店舗数は45店舗を数えており、当期(2004年3月期)末までには50店舗体制が整う予定です。

事業展開では、引き続き「車検・整備事業」と「車販売事業」に注力しています。「車検・整備事業」では、受付から車検・整備までを行うことができる指定整備工場認可店舗を増やす一方、タレントのユースケ・サンタマリアさんを起用したテレビコマーシャルで、見積り時にお客さまに立ち会っていただき、透明性の高い価格とメニューを提供する安心車検をアピールしました。加えて店頭でも積極的な販促活動を行った結果、オートバックスグループ店舗で車検や整備を受けられるお客さまは確実に増えてきています。

「車販売事業」につきましても、オートバックス・カーズ端末の店舗への導入に注力しており、2003年6月末時点で142台の設置を完了しています。また株式会社ガリバーインターナショナルとの提携で同社との在庫共有を実現し、より豊富な品揃えを提供できることとなりました。

よりの確な情報開示を目指して

弊社は、株主・投資家の皆さまをはじめとするステークホルダーの方々に、より正確で迅速な経営・財務情報の開示に努めておりますが、その一環として、前期より単体ベースで公表していた四半期決算を、当期(2004年3月期)からは連結ベースでも公表いたします。

前号実施の株主アンケートにご協力いただいた皆さまには、大変に感謝しております。今後も、頂戴した貴重なご意見も参考にしながら、より積極的な情報開示に努めていく所存です。皆さまには、引き続きオートバックスグループへの変わらぬご支援と、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

2003年9月

住野 公一

代表取締役 CEO

住野 公一

CEO 略歴

1948年大阪に生まれる。
1970年立命館大学経済学部卒業後、弊社の前身である大豊産業株式会社に入社。主に貿易・教育・店舗運営・販促を経験、1994年から現職。休日の時間がある時には、学生時代から続けているチェロを奏でる。



なぜなに

オートバックスグループ

Vol. 2 車販売事業

「トータルカーライフサポート業」の実現で成長を持続

「カー用品販売業」から「トータルカーライフサポート業」への進化で成長を持続する、それが弊社の事業戦略です。カー用品の販売・取り付けを基盤に、多彩なピットサービス、さらには車検など、事業領域の拡大と充実を続ける弊社にとって、車の販売もいわば必然の流れ。すなわちお客様の便利で楽しいカーライフの創造のために、あらゆるニーズにお応えしていこうとする戦略の一環なのです。当面の目標としては、年間2万台以上の中古車販売を実現できる事業体制を構築すると共に、ファイナンスサービスなど、お客様の購入時の利便性を考えた仕組みづくりを急ぐ考えです。

 **AUTOBACS**  **CARs**



「お目当ての車を探すならオートバックスのお店で・・・。」

いま、そんなお客さまが確実に増えてきています。今回の「なぜなにオートバックスグループ」では、なぜ“カー用品総合専門店”として発展してきたオートバックスグループが車の販売を行っているのか、その理由と期待についてご紹介します。

オートバックスグループの強みが発揮できる中古車事業

今や国内の中古車市場は、販売台数において新車市場を大きく上回り、年々拡大する傾向にあります。また中古車販売においては、会社の信用や保証・サービス体制が重要になりますが、弊社の優位性は、これまで築き上げてきたブランド力や事業インフラを効果的に活用できる点にあります。全国規模の店舗ネットワーク、納車前の整備やお客さまが希望するパーツの取り付け、また納車後のメンテナンスや車検などの充実したサービスは、オートバックスグループだからこそ提供できる付加価値であると言えるでしょう。

国内全店における中古車販売体制の確立に向けて

2001年から一部店舗で中古車販売を始めた弊社では、2002年6月に中古車オークションの株式会社オークネットと業務提携し、本格的な事業展開に乗り出しました。さらに2003年4月には、中古車買取・販売の大手、株式会社ガリバーインターナショナルとも提携し、在庫の拡大を図りました。

各店舗の中古車販売コーナー「オートボックス・カーズ」には専用端末が設置され、お客さまは約30,000台の在庫の中から、車種や年式、色など希望条件を満たす車を瞬時に検索できるシステムになっています。同端末は2003年6月末現在、全国の142店舗に導入されていますが、2004年4月までには全店舗への設置を完了し、全国規模の中古車販売体制を確立する方針です。



2002年10月には、「オートボックス・カーズエキスポ神戸ポートアイランド店」をオープンしました。同店は西日本地区最大級の中古車展示場で、常時500台以上を展示・販売し、車検や整備などのピットサービスも提供しています。また全国のフランチャイズ店の仕入れや研修を支援する役割も担います。



※「オートボックス・カーズ」について、詳しくは下記URLをご参照ください。
<http://www.abcars.jp>

新車販売事業にも参入 スズキとの共同企画で特別仕様車 「ラバンベネトンバージョン」を発売

2003年4月、スズキ株式会社およびベネトンジャパン株式会社との3社コラボレーションで、特別仕様車「ラバンベネトンバージョン」を発売しました。

内装には明るいグレーを基調とした専用シートカバーとドアトリムを採用。エンブレムや専用ロゴを施すなど「ベネトン」のデザインテイストを各所に盛り込んだ、ファッショナブルな仕様となっています。弊社の従来の顧客層とは異なる20歳代から30歳代の女性をターゲットにしており、新たなオートボックスファン獲得のためのテストマーケティングの要素も持たせています。

弊社とスズキの共同企画第一弾となる「ラバンベネトンバージョン」は、国内の『オートボックス』『スーパーオートボックス』店舗、スズキ代理店にて販売するほか、弊社の車販売のウェブサイト「オートボックス・カーズナビ」でも取り扱っていきます。



Garaiya ガライヤ開発物語

Vol. 2 チーフエンジニアに聞く

「ガライヤ開発物語」第二弾となる今号では、ガライヤ開発のチーフエンジニアで、オートボックス・スポーツカー研究所の取締役を務める解良喜久雄氏に、開発の最新動向取材しました。開発も最終段階に入り、発売を間近にひかえたガライヤにける意気込みや夢を語ってもらいました。

「ガライヤ」は、市販に向け開発の最終段階にあります。

Q. 「ガライヤ」プロジェクト誕生の経緯についてお聞かせください。

A. オートボックスセブンが、オリジナルスポーツカーとモータースポーツ用品を開発・製造する全額出資の子会社、株式会社オートボックス・スポーツカー研究所 (ASL) を設立したのは、2001年4月でした。

そして新会社設立からわずか8ヶ月後の2001年12月にはガライヤ開発プロジェクトが公表され、同時に「ガライヤ」のプロトタイプも発表しました。しかしこれはあくまでもショーカーであり、その後現在に至るまで、商品化に向けた開発を続けています。現在は、開発の指揮を執る京都府亀岡の工場と、生産を行うイギリス工場の双方で、市販に向けた最後の仕上げにかかっています。



解良喜久雄 (かいら きくお)
昭和21年生まれ。イギリスでレーシングカーテクノロジーを学び、帰国後の昭和51年、日本初のF1グランプリで「KE007」をメカニックとして快走させた。昭和62年には日本初の公認チューニングカー「トミーカイラ M30」を製作。以後多くのチューニングカーを手掛け、現在、ガライヤプロジェクトのチーフエンジニアとして開発の前線に立つ。

車好きが夢見るスポーツカーの実現にエネルギーを注ぎました。

Q. 「夢のスポーツカー」としてのガライヤの魅力を紹介してください。

A. 「ガライヤ」開発の基本コンセプトは、他にはどこにもない、そして意外性のあるクルマをつくることでした。カタチや走りにこだわり、車好きの夢見るようなスポーツカーを作ることにエネルギーを注いでいます。車重を1トン以下に抑えて軽快な走りを実現すると共に、走りの醍醐味を感じられるよう、窓は大きく斜めに低く切り込み、路面の流れが視界に入るようにしました。ガルウィングの採用で、ドアを開いた時の美しさも存分に表現しています。

さらに、壊れにくくメンテナンスが容易であることも「ガライヤ」の魅力です。通常、スポーツカーというと、メンテナンスが大変で維持費もかかるとイメージされがちですが、「ガライヤ」は部品の多くを国産車と同じものにするので、部品調達を容易にしました。また、全国に広がるオートボックスグループの店舗で修理・メンテナンスの受け付けが可能であることもオーナーにとっては安心できる点ではないでしょうか。



もっと軽く、もっと速く。技術的には、「ガライヤ」の軽量化に一番苦労しました。

Q. ここまで来るには、乗り越える壁も多かったのではないのでしょうか。

A. その通りです。特に技術的には、「ガライヤ」の軽量化に一番苦労しました。車両重量はスポーツカーの性能を左右する大きな要素ですから、「もっと軽く」が大きなテーマ



でした。部品一つ装着するにも、コンパクトにかつ無駄なく配置するのも苦労しました。

また、オートバックスグループで販売する市販車である以上、事業面でも成功するクルマに仕上げる必要があります。営業部門の意見、つまりマーケティングに基づいたお客様のニーズも的確にとり入れながら開発を進めました。当初の予定より開発期間を要しているのも、より完成度の高いクルマを提供したい、という私たちの責任感からです。お待たせしているお客さまには大変申し訳ないのですが・・・。

「ガライヤ」がずっと車好きの人々に夢を与え続けられる存在になることを願っています。

Q. 最後に「ガライヤ」の将来にける夢を聞かせてください。

A. 発売・納車が始めれば開発は一段落します。しかし、私たちの「ガライヤ」はそこで終わるわけではありません。本当の勝負はそれからで、多くのファンに愛されるクルマへと「ガライヤ」を育てる仕事が残っています。たとえば、現在車両の開発と同時に、アクセサリやパーツの開発も進めています。これにより、お客さまは「ガライヤ」購入後も、ご自分の好みに応じて手を加え、より個性の強いクルマへと進化させることができるのです。「ガライヤ」が、発売後もずっと車好きの人々に夢を与え続けられる存在になることが私の夢であり願いです。

※「ガライヤ」について、詳しくは下記URLをご参照ください。
<http://www.asl.info/>
(オートバックス・スポーツカー研究所)



ETCとは・・・

Electronic Toll Collection Systemの略称で、高速道路など有料道路の料金所で、車載器と料金所に設置されたアンテナの間で無線通信を用いることで、一旦停止することなく自動的に料金の支払いを行うシステムです。国土交通省の推進するITS(Intelligent Transport System:高度道路交通システム)の一環として、2001年3月から首都圏を中心にサービスを開始。同年11

月からは全国で展開しており、料金所の混雑防止や付近環境の向上などの効果が期待されています。



オートバックスグループ店舗では、システムの導入時からETC車載器の販売・取付けとセットアップ*、車載器に挿入するETCカードの取次代理店業務を行っています。店頭のご案内や高速道路料金の一部をお返しするキャンペーンなどの積極的な販促活動の結果、2003年6月末までに合計18万台(普及台数の約16%)をセットアップしました。また弊社は、セットアップを行う事業者約1万7千社でつくる「セットアップ事業者連絡会」の代表幹事を務め、ETC普及に協力するなど、この国家的な取り組みの推進に貢献しています。

ETC車載器セットアップ件数No. 1

2003年6月18日より、道路3公団はETCの普及を目的とした「ETCモニター・リース等支援制度」を実施しました。新規のETC車載器購入者を対象に店頭での割引の形で購入代金を助成するこの制度は、一般車両約12万台、事業用車両約35万台に適用されました。実施された店舗は全国約1万6千店に上りま

すが、オートバックスグループでは、全国約500店舗において一般車両枠の3分の1を取り扱いました。

次世代ETC実用実験を実施

2002年2月、ETCを含むITS全体の普及と実現の促進と、それに伴う関連車載端末の技術開発のために設立された「株式会社アイ・ティー・エス総合研究所」に出資しました。同研究所は関連省庁、メーカーなど関係企業の協力のもと、2003年2月に「オートバックスエクスプレス129厚木店」において、次世代ETCの模擬実験を行いました。次世代ETCとは、既存のETCシステムを発展させて、各種料金の決済や多様な情報提供サービスを行うもので、今後の車載端末高度化の鍵を握る技術です。

※セットアップ・・・購入した車載器に、お客様の車両情報を入力する作業

ARTA活動報告

1997年、オートバックスグループは、日本各地で開催されているマイナーカテゴリーレースに的を絞り込み、「ART (AUTOBACS Racing Team)」の活動を開始しました。この翌年の1998年、元F1レーサーの鈴木亜久里氏からのオファーで結成されたのが「ARTA (AUTOBACS Racing Team Aguri) Project」です。このプロジェクトでは、世界に通用する優秀な日本人レーシングドライバーの育成を主目的に、国内外のあらゆるレベルのレースに参戦しています。所属するドライバーはいずれも豊かな才能をもち、将来は世界での活躍を期待されています。すでに、国内レースで優秀な成績を納めると共に、欧米・アジアのレースへも参戦し実績を積み上げています。

ARTAのドライバーは、全てオートバックスグループのロゴがデザインされたレーシングカーでサーキットを走っています。ドライバー育成とレース活動に取り組み、日本のモータースポーツ発展にも寄与するオートバックスグループ。コーポレートイメージとストアブランドの向上を実現しつつ、モータースポーツにかける熱い想いをお客さまと共に分かち合いたいと考えています。

ARTA Garaiya が全日本 GT 選手権に参戦

オートバックスグループが開発するスポーツカー「ガライヤ」をベースとしたレーシングマシンのARTA Garaiyaは、今年度からGT300クラスに参戦し、2003年5月4日、富士スピードウェイで開催された2003年度全日本GT選手権シリーズ第2戦「ALL JAPAN GT FUJI-500」において、決勝第3位に入賞しました。レーシングマシンとして完成度の高い性能を有しているだけではなく、その美しいスタイリングでもサーキットの観衆を魅了するARTA Garaiya。ドライバーである新田守男と高木真一のコンビは、昨年のシリーズでランキング第1位となるなど、これまでも優秀な成績を上げています。新しいマシンを得て、チームは好調を維持しており、その後のレースでも活躍を続けています。



2003年度 主な参戦結果 (AUTOBACS JGTC)

第5戦ドライバー

GT500	NSX	土屋 圭市
		金石 勝智
GT300	Garaiya	新田 守男
		高木 真一

成績

		Round 1	Round 2	Round 3	Round 4	Round 5
GT500	決勝	11位	リタイヤ	11位	11位	12位
	予選	14位	16位	15位	14位	17位
GT300	決勝	19位	3位	4位	9位	6位
	予選	5位	7位	5位	8位	8位

※「ARTA」について、詳しくは下記URLをご参照ください。
オートバックスグループのモータースポーツ活動について詳しくご覧いただけます。
<http://www.autobacs.co.jp/motorsports/index.html> (オートバックス/モータースポーツ)



財務報告

連結貸借対照表

単位：百万円

	第56期 (平成15年3月31日現在)	第57期 第1四半期 (平成15年6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	75,828	81,085
現金及び預金	23,681	18,271
受取手形及び売掛金	12,272	16,839
有価証券	5,721	8,707
たな卸資産	17,549	19,582
繰延税金資産	2,240	2,682
未収入金	13,302	12,415
その他	3,159	4,644
貸倒引当金	△2,100	△2,057
固定資産	111,310	108,427
有形固定資産	59,463	59,603
建物及び構築物	26,370	26,077
土地	25,014	24,996
その他	8,079	8,529
無形固定資産	2,795	2,578
投資その他の資産	49,051	46,245
投資有価証券	16,128	13,991
長期貸付金及び長期差入保証金	28,990	29,039
繰延税金資産	3,182	2,636
その他	2,069	2,018
貸倒引当金	△1,319	△1,440
資産合計	187,138	189,512
(負債の部)		
流動負債	29,961	33,757
支払手形及び買掛金	13,109	18,432
短期借入金	3,111	1,928
未払法人税等	2,342	1,590
その他	11,397	11,806
固定負債	10,834	11,327
長期借入金	2,019	2,513
退職給付引当金	1,299	1,297
役員退職給与引当金	233	233
連結調整勘定	42	21
その他	7,239	7,261
負債合計	40,796	45,084
(少数株主持分)		
少数株主持分	524	493
(資本の部)		
資本金	31,958	31,958
資本剰余金	32,241	32,241
利益剰余金	84,523	84,320
その他有価証券評価差額金	△126	29
為替換算調整勘定	△179	△228
自己株式	△2,601	△4,387
資本合計	145,817	143,935
負債、少数株主持分及び資本合計	187,138	189,512

連結損益計算書

単位：百万円

	第56期通期 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	第57期第1四半期 (自平成15年4月1日 至平成15年6月30日)
売上高	230,478	57,200
売上原価	163,457	41,394
販売費及び一般管理費	59,369	14,587
営業利益	7,652	1,217
営業外収益	6,210	1,500
営業外費用	3,589	759
経常利益	10,273	1,958
特別利益	480	—
特別損失	1,137	—
税引等調整前当期純利益	9,616	1,958
法人税、住民税及び事業税	5,392	1,541
法人税等調整額	300	△21
少数株主損失	80	14
当期純利益	4,003	452

連結キャッシュフロー計算書

単位：百万円

	第56期通期 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	第57期第1四半期 (自平成15年4月1日 至平成15年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,925	238
税金等調整前当期純利益	9,616	1,958
減価償却費	5,394	1,369
売上債権の増減額(増加:△)	△130	△3,591
たな卸資産の増減額	△842	△1,835
その他	△1,319	4,475
小計	12,718	2,376
利息及び配当金の受取額	806	196
利息の支払額他	△154	△39
法人税等の支払額	△5,445	△2,294
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,002	△2,041
有形及び無形固定資産の取得による支出	△10,331	△1,830
有価証券・投資有価証券の取得・売却	△1,236	△806
その他	3,565	594
財務活動によるキャッシュ・フロー	△9,098	△3,622
短期借入金の増減額(減少:△)	△2,562	△1,219
長期借入による収入	773	133
長期借入金の返済による支出	△3,467	△104
自己株式取得による支出	△2,575	△1,791
配当金の支払額	△1,349	△659
その他	82	18
現金及び現金同等物に係る換算差額	△25	6
現金及び現金同等物の減少額	△9,200	△5,419
現金及び現金同等物の期首残高	32,835	23,437
連結子会社除外に伴う現金及び現金同等物減少額	△197	△12
現金及び現金同等物の期末残高	23,437	18,005

単体貸借対照表

単位：百万円

	第56期 (平成15年3月31日現在)	第57期 第1四半期 (平成15年6月30日現在)
(資産の部)		
流動資産	72,986	76,951
現金及び預金	19,904	14,652
受取手形及び売掛金	15,604	21,149
有価証券	5,721	8,707
たな卸資産	8,092	8,411
繰延税金資産	1,503	1,592
未収入金	12,856	11,931
短期貸付金	10,472	1,166
関係会社短期貸付金	—	9,885
その他	1,406	1,998
貸倒引当金	△2,575	△2,544
固定資産	112,886	112,081
有形固定資産	49,734	49,586
建物	20,510	20,269
土地	22,932	22,932
その他	6,291	6,384
無形固定資産	3,258	3,021
投資その他の資産	59,892	59,473
投資有価証券	14,932	12,222
長期貸付金及び長期差入保証金	33,997	35,667
繰延税金資産	4,639	4,026
その他	9,601	10,987
投資損失引当金	△908	△908
貸倒引当金	△2,368	△2,521
資産合計	185,872	189,033
(負債の部)		
流動負債	28,632	32,559
買掛金	12,070	17,196
短期借入金	646	681
未払法人税等	1,834	1,478
その他	14,082	13,203
固定負債	8,909	8,882
退職給付引当金	878	884
役員退職給与引当金	192	192
その他	7,838	7,804
負債合計	37,542	41,441
(資本の部)		
資本金	31,958	31,958
資本剰余金(資本準備金)	32,241	32,241
利益剰余金(利益準備金+その他の剰余金)	86,813	87,708
利益準備金	1,296	1,296
任意積立金	78,331	82,131
当期末処分利益	7,184	4,280
その他有価証券評価差額金	△106	51
自己株式	△2,577	△4,368
資本合計	148,330	147,591
負債及び資本合計	185,872	189,033

単体損益計算書

単位：百万円

	第56期 (自平成14年4月1日 至平成15年3月31日)	第57期第1四半期 (自平成15年4月1日 至平成15年6月30日)
売上高	203,435	52,612
売上原価	161,739	42,415
販売費及び一般管理費	34,776	8,050
営業利益	6,918	2,146
営業外収益	5,231	1,482
営業外費用	1,627	227
経常利益	10,523	3,401
特別利益	509	—
特別損失	2,239	—
税引前当期純利益	8,792	3,401
法人税、住民税及び事業税	4,731	1,425
法人税等調整額	△993	411
当期純利益	5,055	1,565
前期繰越利益	2,804	2,714
中間配当額	674	—
当期末処分利益	7,184	4,280

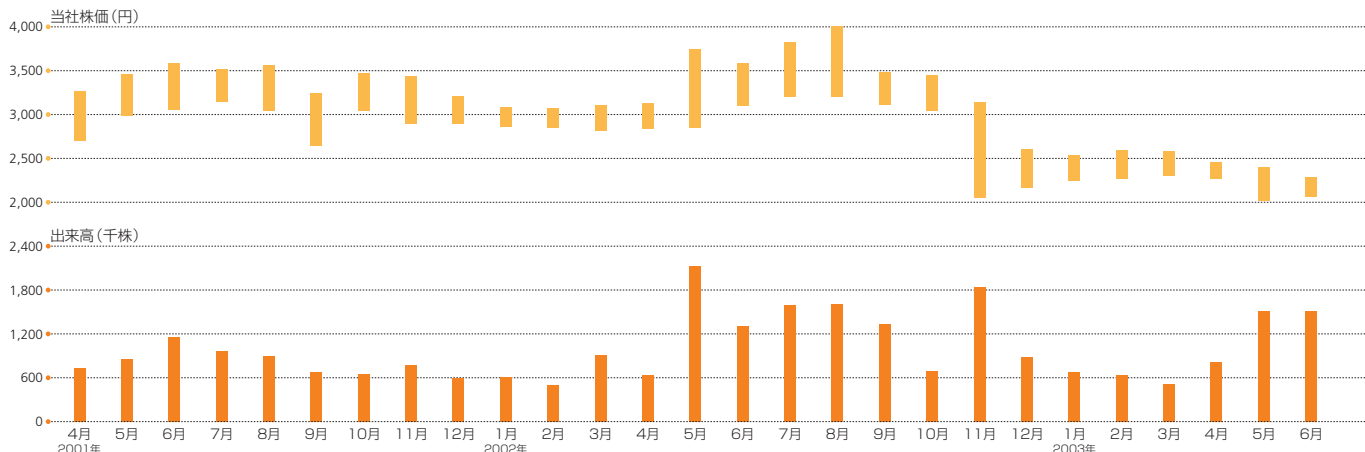
- 注) 1. 資本の部の表示方法について
商法施行規則の改正に従いまして、前期から資本の部の表示方法を変更しています。
2. 有形固定資産の減価償却累計額
当四半期 24,186百万円
3. 一株当り当期純利益12円21銭
4. 金額は百万円未満を切り捨てて表示しています。

業態別店舗数

	第56期 (平成15年3月31日現在)	第57期 第1四半期 (平成15年6月30日現在)
オートバックス	435	432
スーパーオートバックス：	43	45
Type I	5	5
Type II	38	40
オートバックスエクスプレス	1	3
オートバックス走り屋天国セコハン市場	13	19
オートハローズ	16	16
オートバックス・カーズ	12	14
海外	10	10
合計	530	539

株式情報 (2003年3月31日現在)

株価推移 (大阪証券取引所)



発行する株式の総数	109,402,300株
発行済株式の総数	37,643,742株
株主数	11,360名
決算日	3月31日
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日
	利益配当金 3月31日
	中間配当金 9月30日 なお臨時に必要なときは、あらかじめ 公告いたします。
1単位の株式の数	100株
公告掲載新聞	日本経済新聞
上場証券取引所	東京証券取引所 大阪証券取引所 ロンドン証券取引所

名義書換代理人	大阪市中央区北浜四丁目5番33号 住友信託銀行株式会社
名義書換事務取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番4号 住友信託銀行株式会社 証券代行部
郵便物送付先電話照会先	東京都府中市日鋼町1番10(〒183-8701) 住友信託銀行株式会社 証券代行部
(住所変更用紙のご請求)	0120-175-417
(その他のご照会)	0120-176-417
名義書換取次所	住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店

株主優待

オートバックスセブンでは、株主の皆さまのご支援に感謝し、株主優待制度を実施しています。『オートバックス』、『スーパーオートバックス』などで、1,000円(消費税を除く)のご利用につき1枚お使いいただける株主優待券(300円割引)を、3月末日と9月末日の年2回、株主名簿に記載されている株主の皆さまにお送りしています。配布枚数は、所有株式数100株から999株で25枚、1,000株以上で50枚です。

会社情報 (2003年6月30日現在)

商号	株式会社オートバックスセブン (AUTOBACS SEVEN CO., LTD.)
創業	1947年2月
資本金	319億5千8百万円
従業員数 (2003年3月31日現在)	1,047名(連結3,712名)
主な事業内容	カー用品の卸、小売り、取り付けおよびオートバックスグループ店舗のフランチャイズ展開

主要な事業所	本社 北日本事業部 北関東事業部 南関東事業部 中部事業部 関西事業部 南日本事業部 海外事業部 C@RS事業部 U-PARTS事業部 東日本ロジスティクスセンター 西日本ロジスティクスセンター	(東京都港区) (仙台市泉区) (千葉県市川市) (千葉県市川市) (名古屋市長栄区) (大阪府吹田市) (福岡市博多区) (東京都港区) (神戸市中央区) (東京都港区) (千葉県市川市) (兵庫県美囊郡)
--------	--	---

役員一覧 (50音順〔監査役除く〕)

取締役兼執行役員(オフィサー)

代表取締役

住野 公一 CEO

取締役

井手 秀博 エグゼクティブ・オフィサー
法人経営指導担当

住野 耕三 エグゼクティブ・オフィサー
人材配置、組織開発、法務、情報システム担当

住野 泰士 エグゼクティブ・オフィサー
車販売関連事業担当

経森 康弘 エグゼクティブ・オフィサー
商品戦略推進担当

野上 明 COO
ストアサポートセンター長

松尾 隆 エグゼクティブ・オフィサー
経営戦略、経理、財務、広報、IR担当

横井 英昭 エグゼクティブ・オフィサー
新規事業開発担当

湧田 節夫 エグゼクティブ・オフィサー
FC事業戦略担当

執行役員(オフィサー)

エグゼクティブ・オフィサー

小平 智志 オートバックス事業開発担当

澤田 和良 車検ビジネス推進、サービス技術開発担当

志野 修市 出退店推進戦略担当

角倉 正親 スーパーオートバックス事業開発担当

武田 健一 マーケティング担当

オペレーティング・オフィサー

江本 吉弘 北関東事業部担当

釜田 尚文 南関東事業部担当

榎 宏介 関西事業部担当

小林喜夫巳 海外事業部担当

戸出 譲 北日本事業部担当

松村 晃行 南日本事業部担当

深山 義郎 C@RS事業部担当

森本 弘徳 中部事業部担当

森本 真臣 U-PARTS事業部担当

監査役 (※印は社外監査役)

小山 勝士 常勤監査役

森野孝太郎 常勤監査役*

吉田 治邦 常勤監査役*

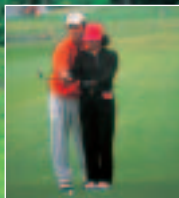
小川 憲司 監査役

オートバックスグループの社会活動への参加

第5回「東京フィランソロピーオープン」に協賛

弊社は、今年で第5回を迎える障害者ゴルフ大会「東京フィランソロピーオープン」に協賛しています。同大会は、“障害者や高齢者の方々が日常的な生活を送る上で障害を感じさせない社会づくりを目指す”というバリアフリーの精神に基づいて開催されているものです。開催当日は、全国から集まった参加者の方々がゴルフを存分に楽しめるよう、オートバックスグループ社員もキャディやOBボール拾いなどのボランティアとして参加、同大会をサポートします。

近年、バリアフリーやノーマライゼーションなどの考え方は、国内外で浸透しつつありますが、一方で障害のある方が支障なく日常生活を送ることのできる環境の整備が遅れているのも事実です。オートバックスグループでは、社会のバリアフリー化を促進する上でも同大会のような活動は重要な意味を持つものと考えています。さらに、「スーパーオートバックス」の一部店舗ではスロープや車椅子用ショッピングカート、障害者用トイレを導入するなど、店舗のバリアフリー化にも取り組み始めています。



視覚障害者部門のプレーヤー



車椅子部門のプレーヤー



車椅子部門のプレーヤー



聴覚障害者部門のプレーヤー

オートバックス 第5回障害者ゴルフ大会 東京フィランソロピーオープン

開催日：2003年10月7日(火曜日)

会場：若洲ゴルフリンクス(東京都江東区)

主催：社団法人日本プロゴルフ協会

後援：文部科学省、厚生労働省、東京都、財団法人日本障害者スポーツ協会、財団法人日本ゴルフ協会

参加対象：肢体、聴覚、内部、視覚に障害のある方で、18ホールプレーが可能な方

オートバックスグループ ホームページのご紹介

お客様のトータルカーライフのお役に立てる情報満載の弊社オフィシャルホームページです。最新のニュースリリースをはじめ、オートバックスグループの店舗案内、車検についてのご案内はもちろん、「オートバックス・カーズ」のページでは中古車の検索・査定などもできるようになっています。また、「オートバックス走り屋天国セコハン市場」のページには店舗案内や特価品の情報などが満載です。ぜひ一度下記アドレスの弊社ホームページにお立ち寄りいただき、熱い思いを感じ取っていただければ幸いです。

<http://www.autobacs.com/>



なお、IR関連情報につきましては、下記ホームページをご覧ください。

<http://www.autobacs-seven.com/>





AUTOBACS SEVEN CO., LTD.

株式会社 オートバックスセブン

東京都港区三田3-13-16 三田43MTビル 〒108-8307